

# WTO新ラウンド交渉の成功を望む【概要】

—2006年中の最終合意を目指して—

(社)日本経済団体連合会  
2006年6月20日

## 《新ラウンド交渉の終結に向けた課題》

加盟国は政治的決断を—決断の時期を逸してはならない—

現状～農業・NAMA(鉱工業品等)で膠着～  
非現実的な相互の譲歩要求をやめ、合意に道筋をつけ、自由化交渉の成果の享受を

先送り(損失大) ← 夏までに合意(自由化メリットの現実化) →

## 【主要交渉分野に関する主張(自由化・ルール整備のメリット)】

### ●農業自由化

- ・これまでの合意のメリットの認識が必要(国内補助金の水準が高い程大幅削減、2013年の輸出補助金等撤廃、高関税率大幅引下げ)
- ・残された論点(重要品目、上限関税等)では改善する側への配慮を
- ・各国とも国内構造改革を進めることで譲歩を

### ●NAMA(鉱工業品等)自由化

- ・先進国は可能な限り低水準、途上国は実行税率の引下げ
- ・分野別関税引下(自動車、電気電子、化学、繊維)の継続、主要途上国の参加
- ・非関税障壁撤廃(EUの恣意的関税分類、インドの各種名目による課税等)

### ●サービス貿易自由化

- ・質の高い自由化に向けた交渉継続(IT関連・電気通信、金融、海上運送、流通、エネルギー、音響映像、建設)・人の移動の自由化
- ・IT化に伴う新形態ビジネスに対応した電子商取引ルールの策定

### ●貿易円滑化ルール策定(貿易規則・手続き・手数料の公表、簡素化)

- ・7月末までの条文案提示
- ・一定期間前の規則の公表、全国一律の公平な運用、国際標準使用等

### ●アンチ・ダンピング協定改訂

- ・7月末までの改訂案提示
- ・AD措置の恒久化防止、AD措置の行き過ぎた影響の軽減、不当調査の早期防止

### ●開発支援

- ・途上国のWTO交渉への積極的関与とわが国の主張への理解の促進(←ODAの戦略的活用)

## 《新ラウンド交渉の終結後を見据えた課題》

グローバルな自由化とルール整備の継続

- 各加盟国・地域ともWTOの維持・強化を
- 各国経済界はより積極的役割を
  - ・相互の連携による加盟国政府の後押し
  - ・自由化への理解を得るため内外各層へのアピールの促進
- WTO体制の維持・強化、交渉推進に向けた改革(問題提起)
  - ・コンセンサス原則の緩和
  - ・客観的データ・分析に基づく交渉の促進
  - ・途上国への交渉支援の強化

グローバルな経済の安定、継続的成長

WTOを基軸に、FTA・EPAによって補完  
省庁間の連携、対外戦略構築機能の一元化  
通商担当大臣と戦略本部の設置

わが国通商戦略のあるべき姿

多角的自由化推進へのインセンティブ、紛争解決手続きへの信頼の喪失  
WTO体制への信頼の喪失